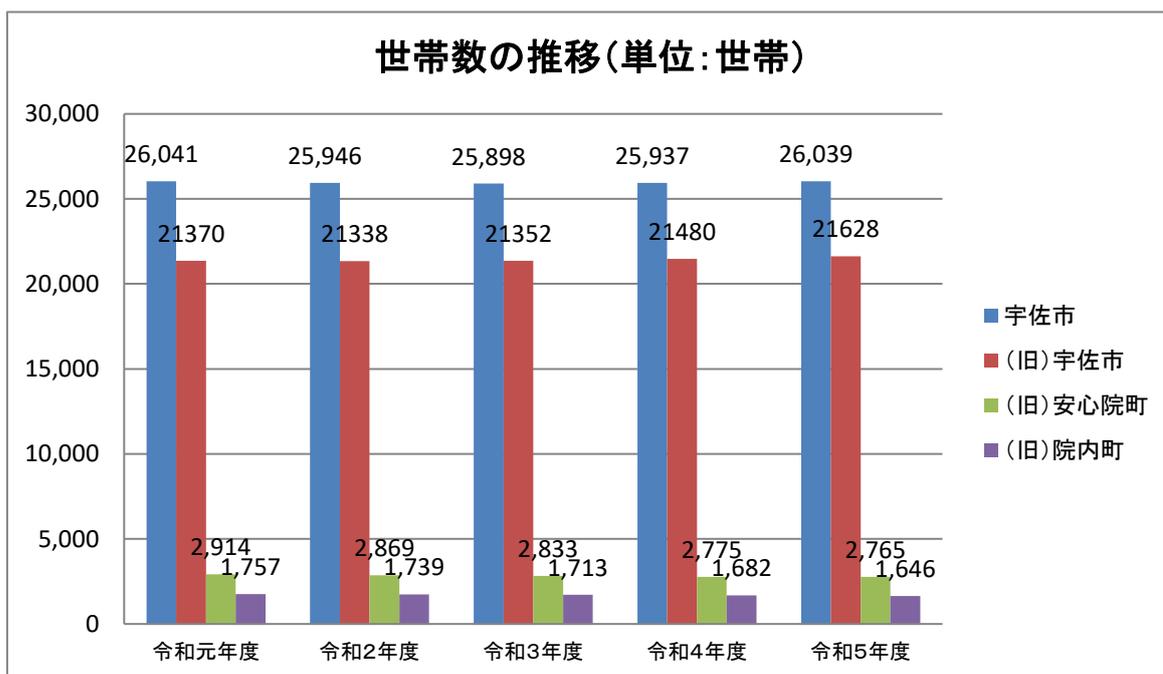
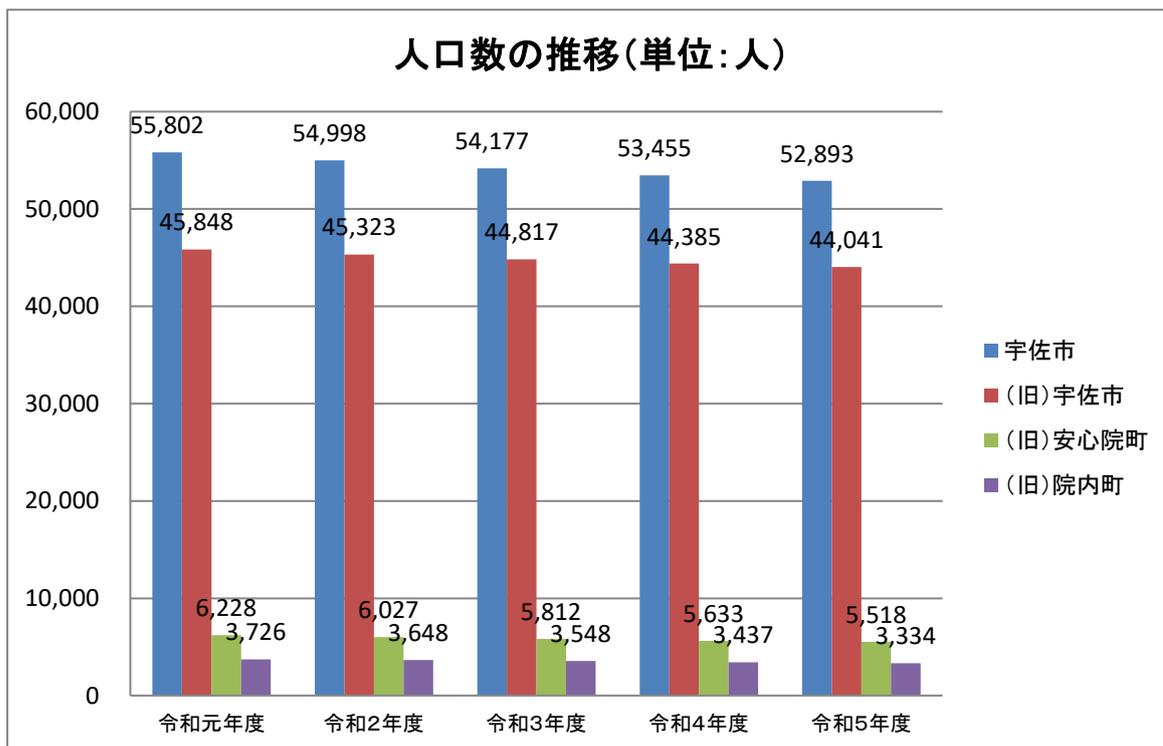


第2章
～宇佐市の子どもと家庭を取り巻く
環境～

1 本市の人口動態等

(1) 人口・世帯数の推移

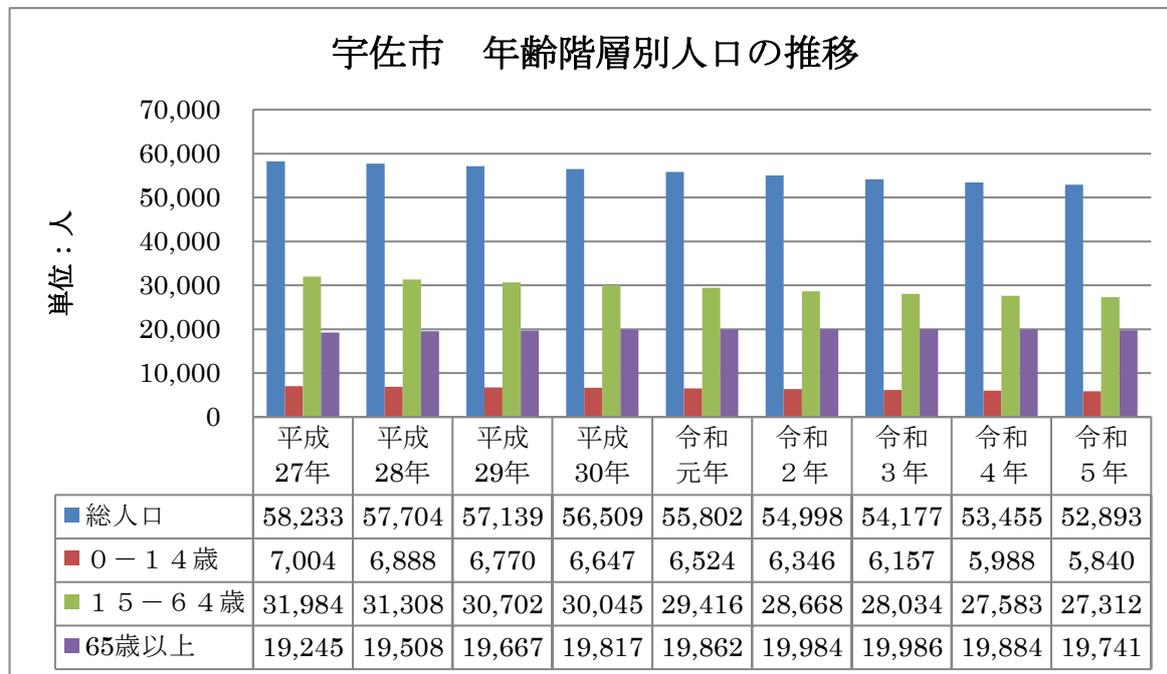
令和5年の人口数は52,893人、世帯数は26,039世帯で、人口数は年々減少しているものの、世帯数は上昇傾向です。



資料：各年10月1日住民基本台帳

(2) 年齢階層別人口の推移

15歳未満の年少人口と、15歳～64歳の生産年齢人口の減少傾向が続き、少子高齢化が進んでいます。また、65歳以上の高齢人口も令和3年をピークに減少しており、人口減少も進んでいます。

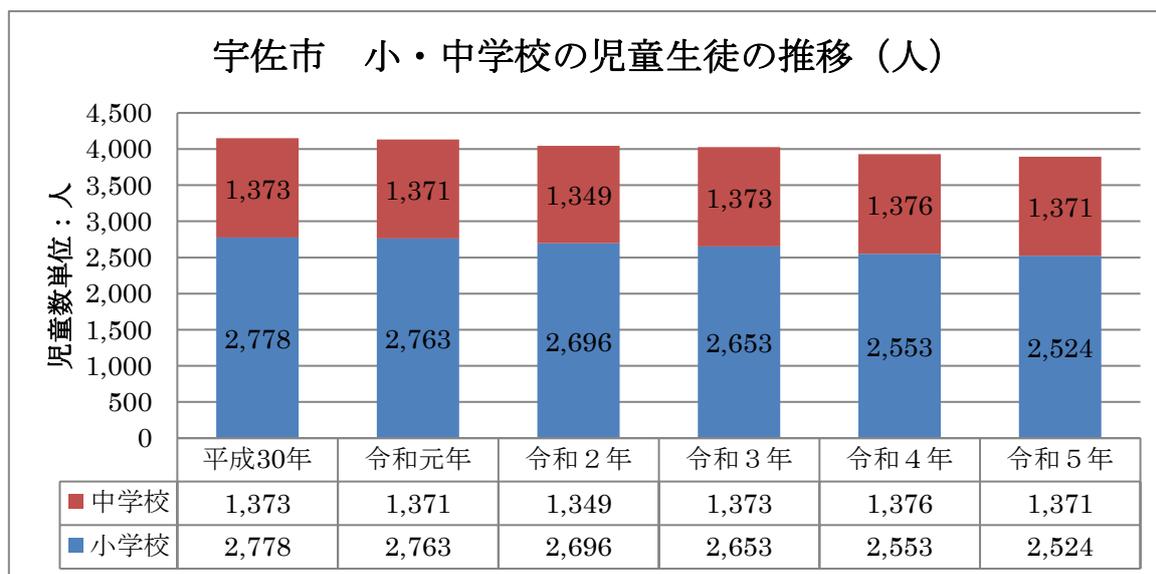


(解説)
 年少人口 : 15歳未満の年少人口層
 生産年齢人口 : 15歳から65歳未満の人口層で労働力の中核層
 高齢人口 : 65歳以上の老人人口層

資料：各年10月1日住民基本台帳

(3) 小学校・中学校の児童生徒数の推移

小学校及び中学校の児童・生徒数は、ともに減少傾向が続いています。平成30年と令和5年で比較すると小学校の減少が顕著に現れています。

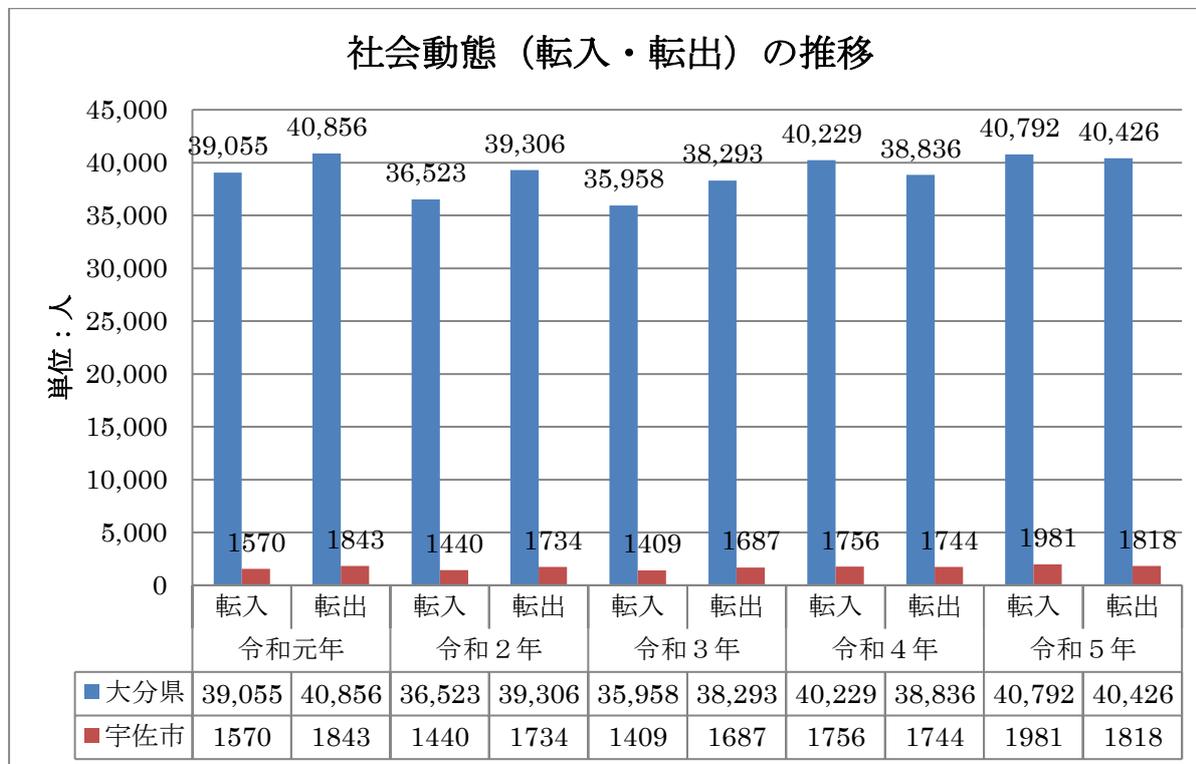


資料：本市庁内資料

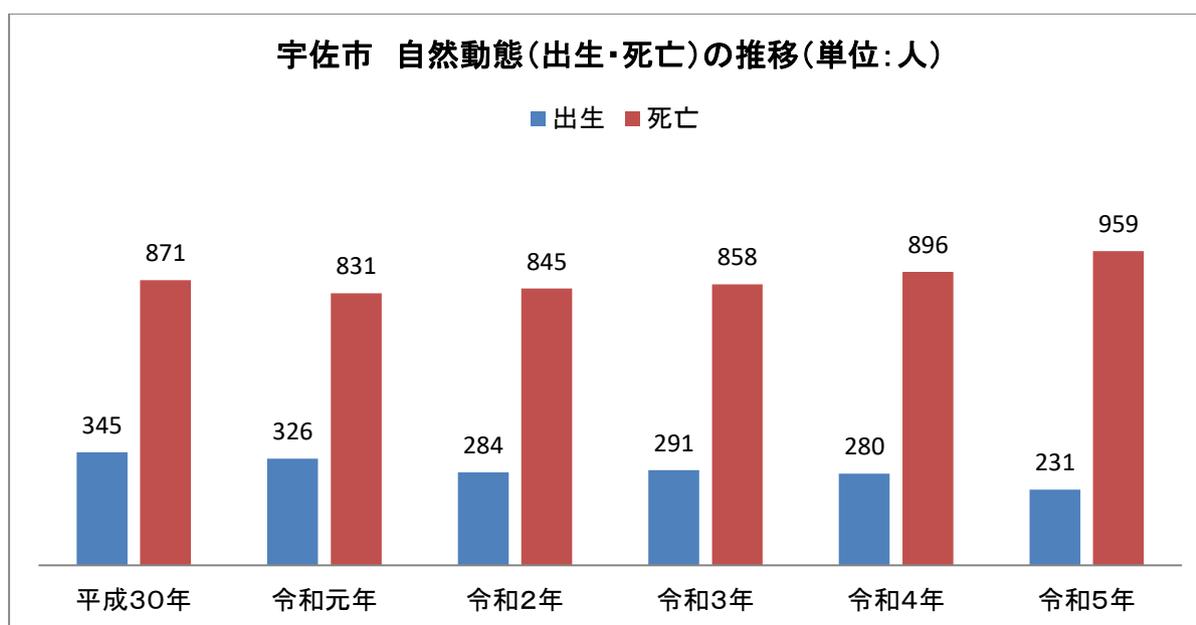
(4) 社会動態・自然動態の推移

社会動態の転入は大分県、本市ともに微少ですが増加傾向です。

自然動態について出生数は減少傾向であり、すべての年度で死亡が出生を上回っていることから、自然減となっています。



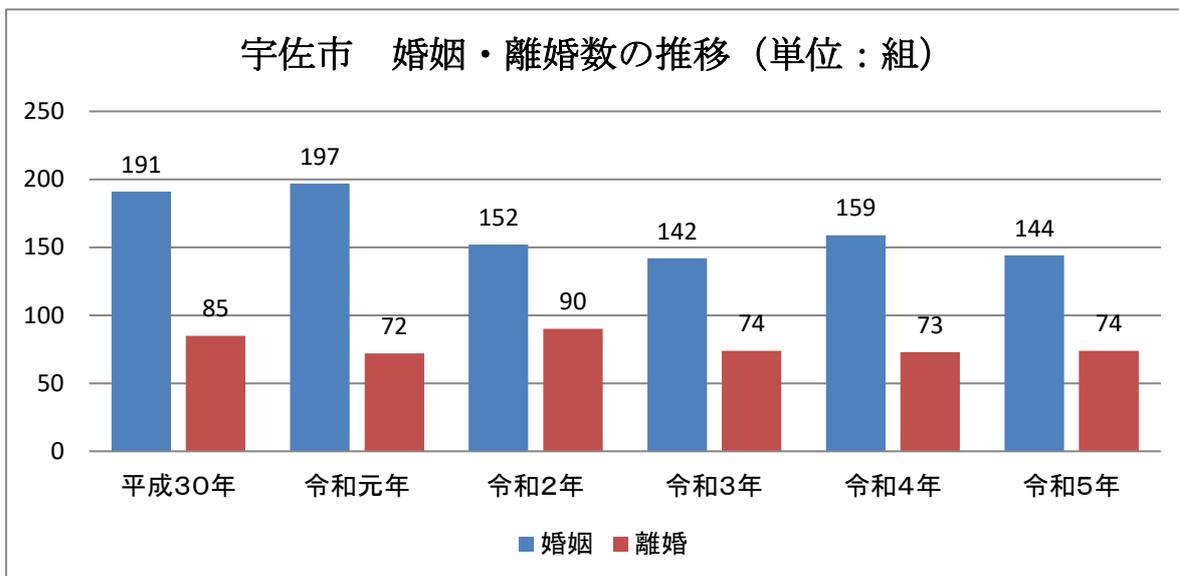
資料：大分県公衆衛生年鑑



資料：本市庁内資料

(5) 婚姻・離婚数の推移

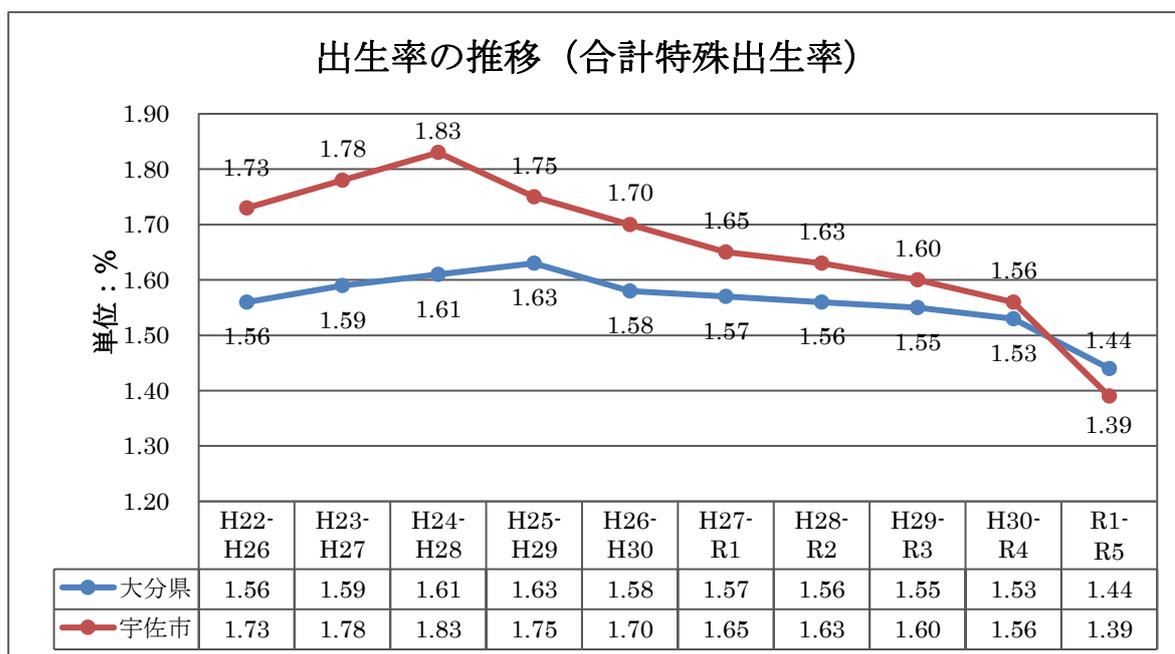
婚姻数は減少、離婚数は、ほぼ横ばいで推移しています。



資料：政府統計

(6) 出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、減少傾向となっています。



資料：大分県公衆衛生年鑑

(解説)

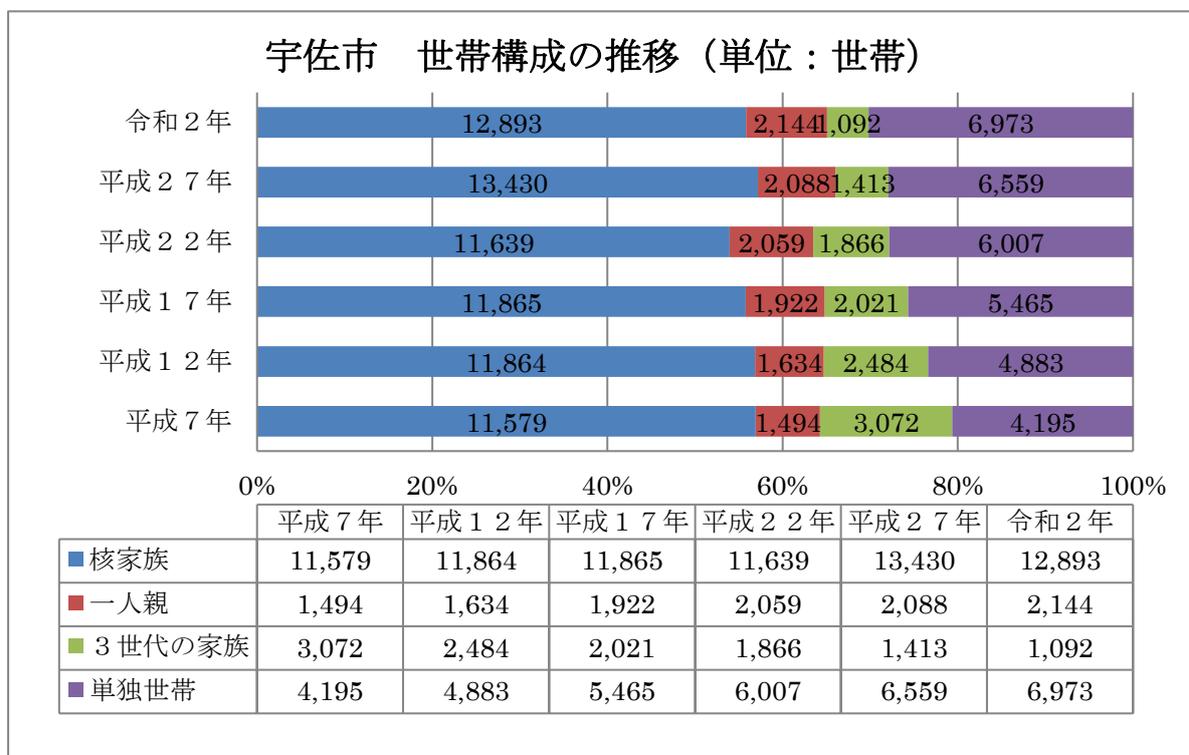
合計特殊出生率とは…

一人の女性が一生に産む子どもの平均数を示します。

出産適齢期(15歳から49歳までの女子)の女子が生涯に生む子どもの数の目安になります。

(7) 世帯構成の推移

核家族世帯は、ほぼ横ばい状態で推移していますが、3世代の家族は1/3に減少しています。1人親世帯と単独世帯は年々増加しており、家族の単位が少数化しています。

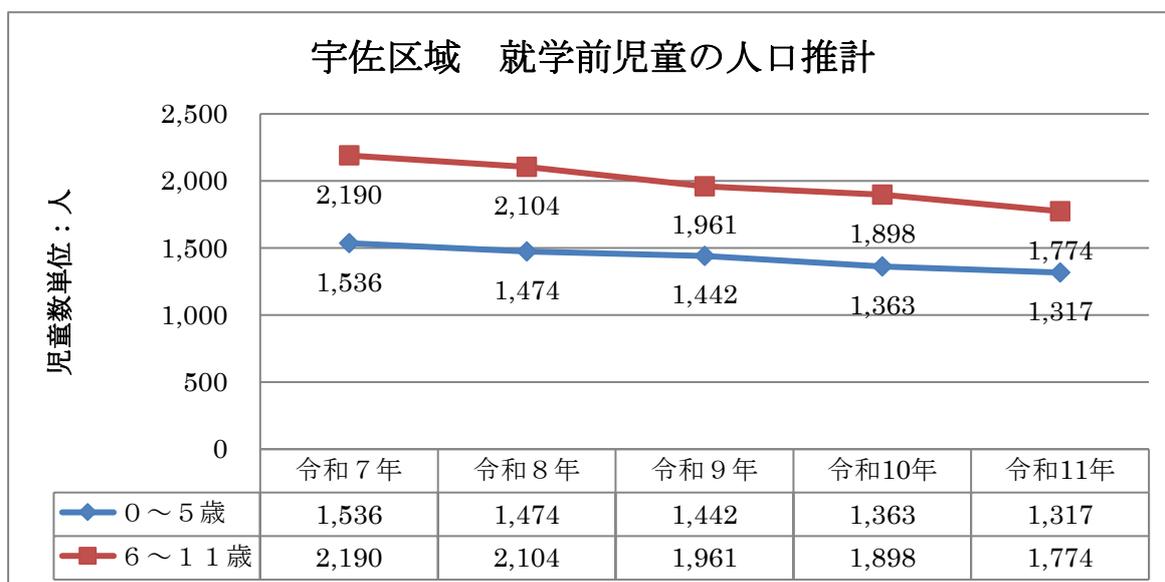


資料：国政調査

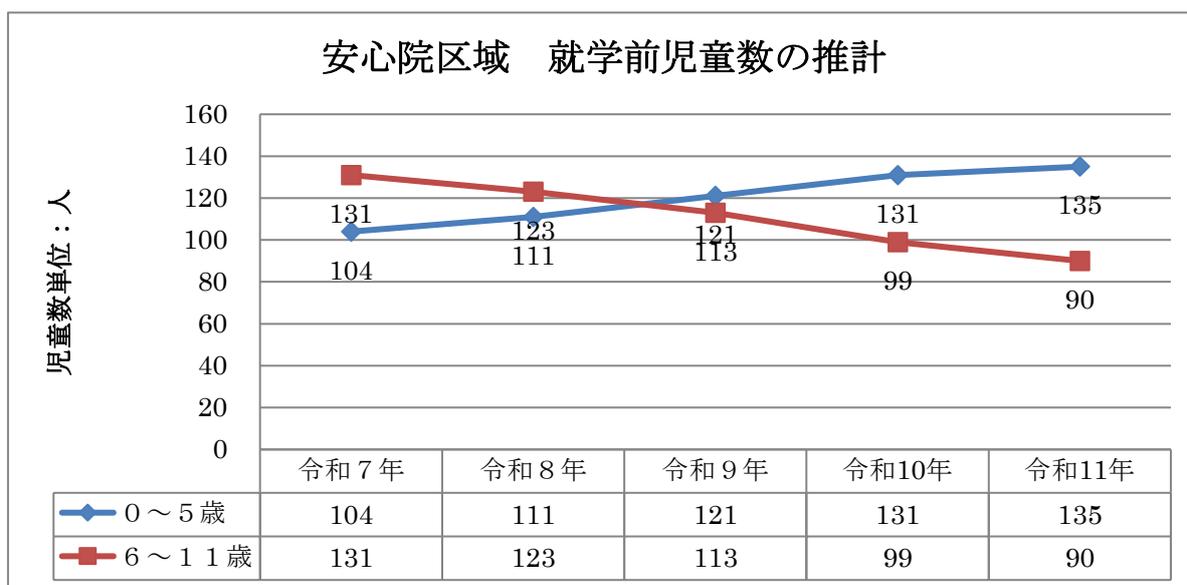
(8) 児童人口の推計

区域別の児童人口(0歳～5歳、6歳～11歳)の将来推計は、安心院区域、院内区域については若干の増加が見られますが、本市全域としては減少することが予想されます。

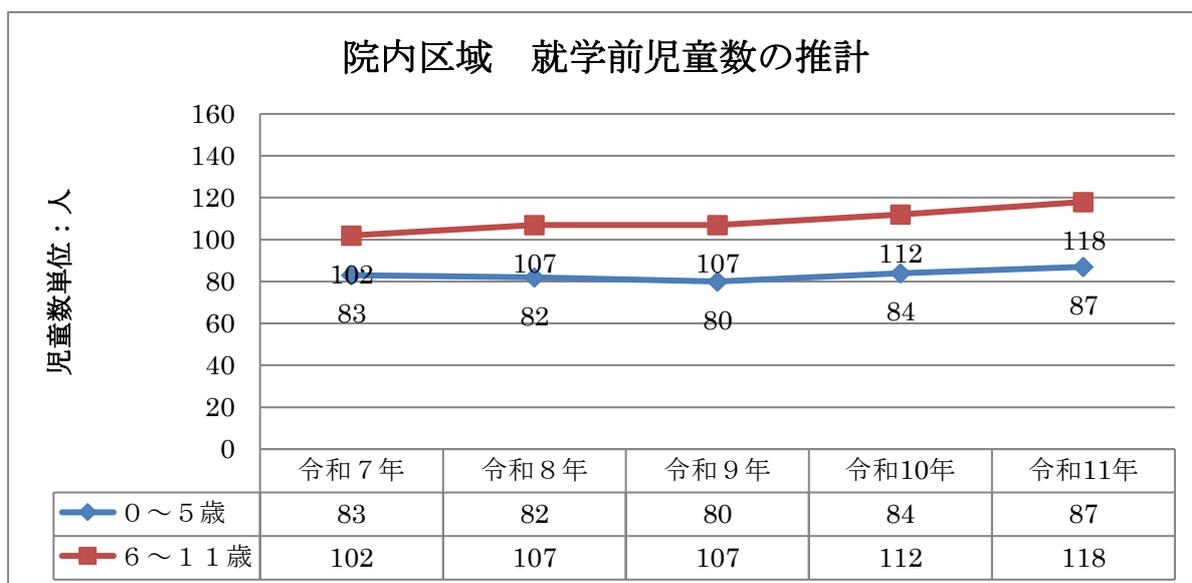
<宇佐区域>



<安心院区域>



<院内院区域>



(解説)

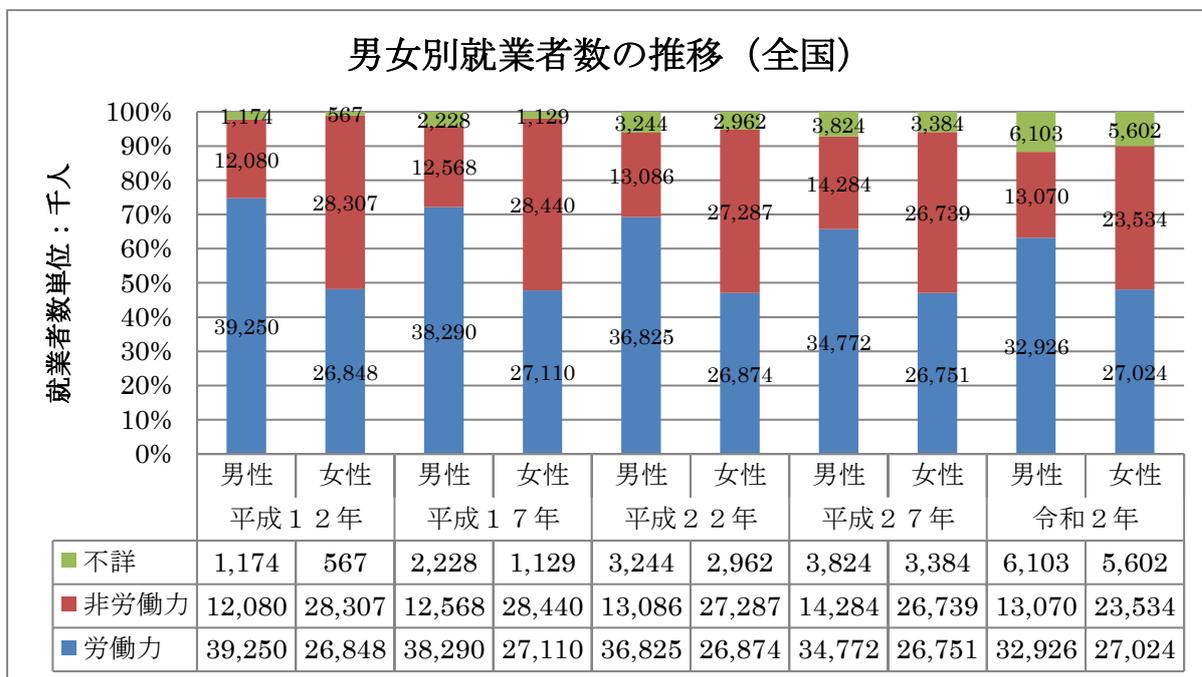
推計方法：コーホート変化率法 使用

※コーホート変化率とは、各コーホート（同じ年又は同じ期間に生まれた人々の集団）について過去における実績人口動態から「変化率」を求め、それに基づき推測する方法。

使用データ：住民基本台帳の実績人数

(9) 男女別就業者数の推移

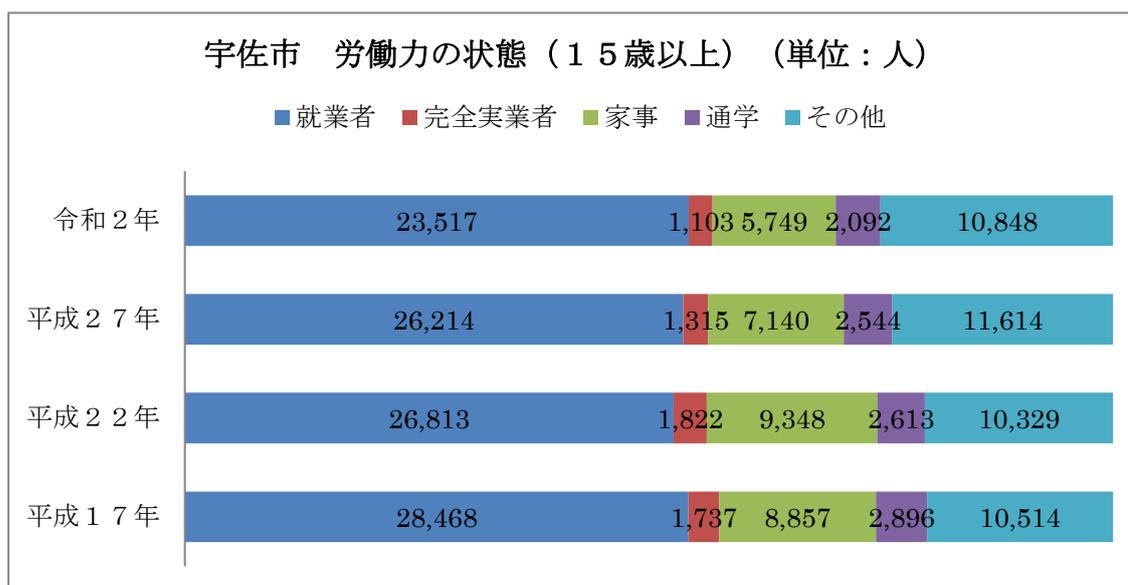
就業者数は人口の減少に伴い、男性は年々減少傾向ですが、女性労働力はわずかですが増加傾向になっています。



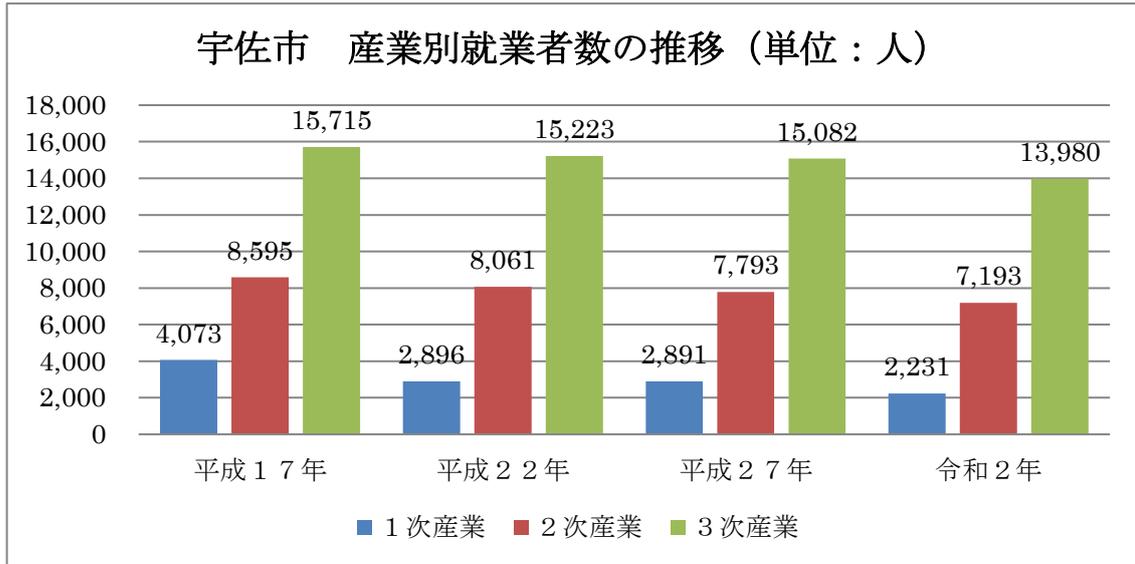
資料：国政調査

(10) 産業別就業者数の推移

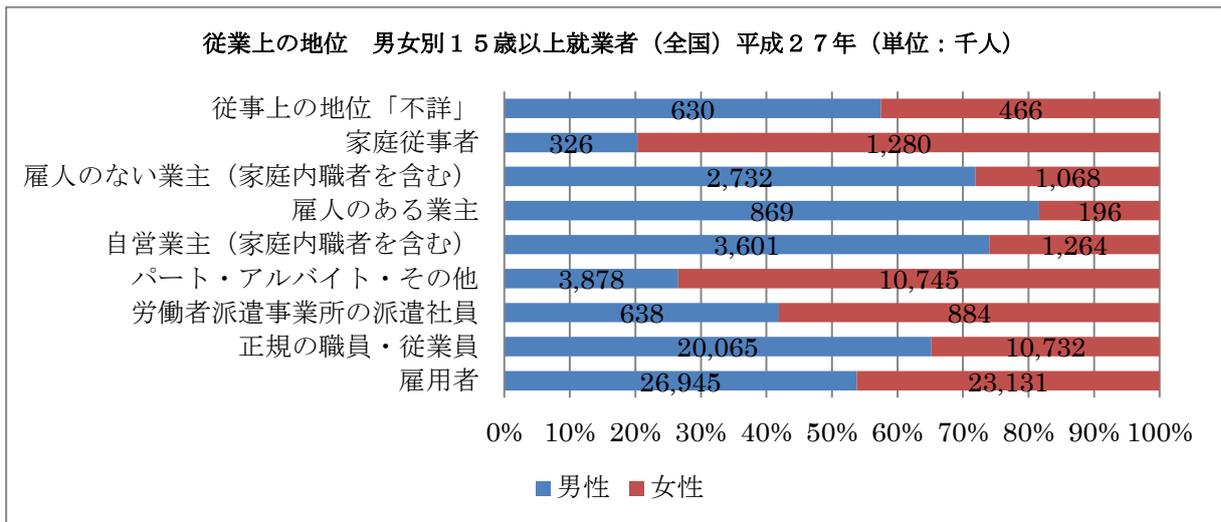
本市の労働力の状態は人口減少の影響もあり、就業者数は平成17年から令和2年度にかけて約5,000人減少し、産業別就業者数では1次産業が約1,800人、2次産業が約1,400人の減少となっている。



資料：本市庁内資料



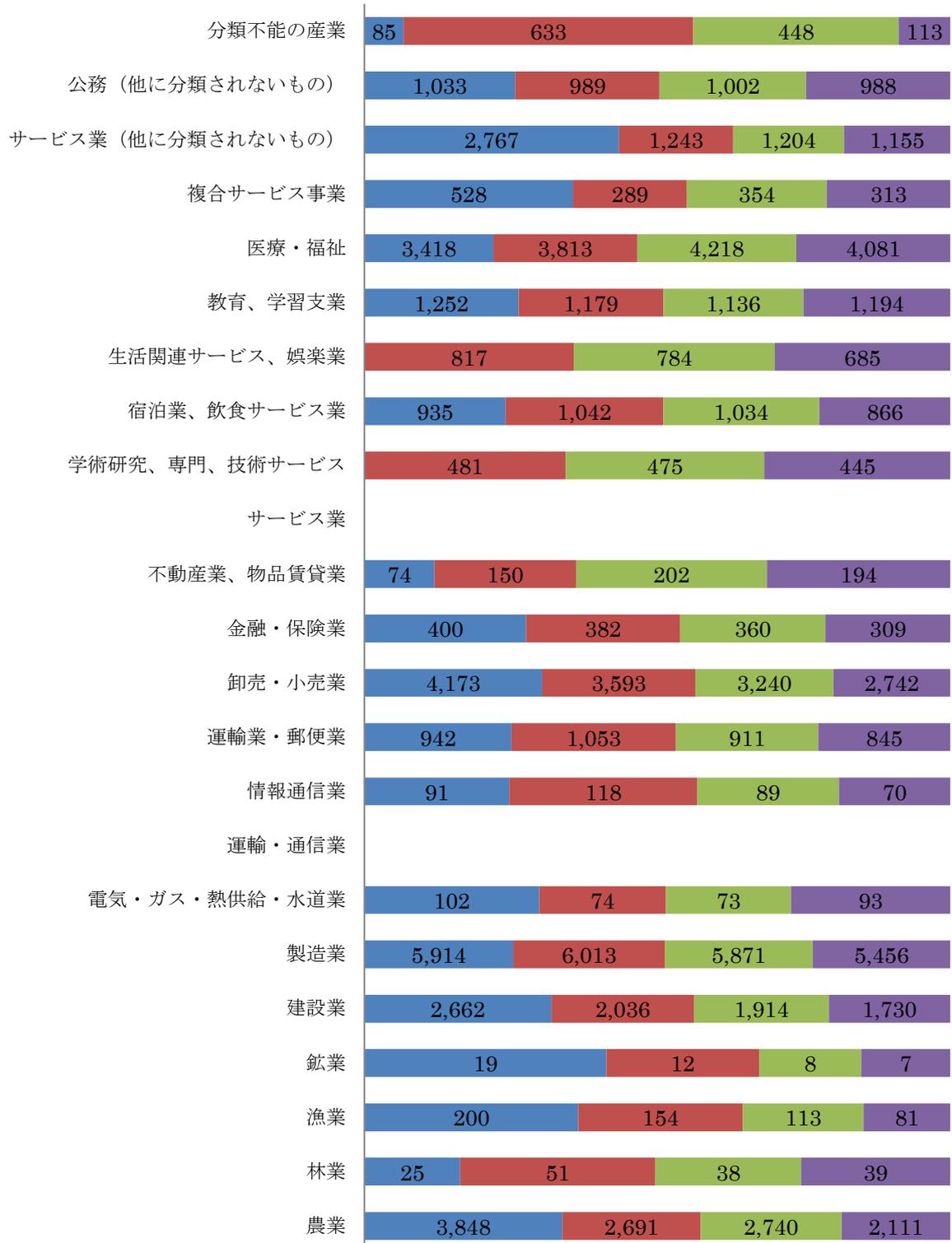
資料：本市庁内資料



資料：国政調査

宇佐市 就業者数（産業別大分類別、15歳以上）（単位：人）

■平成17年 ■平成22年 ■平成27年 ■令和2年



資料：本市庁内資料

2 ニーズ調査の概要

(1) 調査目的

令和6年度までを計画期間とする、現在の「第2期宇佐市子ども・子育て支援事業計画」を改定し、令和7年度から5年間を計画期間とする新たな計画の策定にあたり、同計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の量の見込みを推計するため、また、本市の子育て支援施策の充実を図るため、市民の教育・保育・子育て支援に関する現在の利用状況や今後の利用希望等を把握する。

(2) 調査地域

市内全域

(3) 調査対象者

住民基本台帳から0歳～小学校4年生までの全世帯抽出（世帯重複ないように抽出）

※未就学児と小学校が重複する世帯は、未就学児を優先する

(4) 調査期間

令和6年3月4日（月）～令和6年3月18日（月）

(5) 調査方法

郵送発送、郵送回収及びWEB回答による無記名回答方式

(6) 回収状況

就学前	配布件数	郵送回答数	WEB回答数	合計回答数	有効回答率
	1,539	585	341	926	60.2%

小学生	配布件数	郵送回答数	WEB回答数	合計回答数	有効回答率
	808	248	134	382	47.3%

合計	配布件数	郵送回答数	WEB回答数	合計回答数	有効回答率
	2,347	833	475	1,308	55.7%

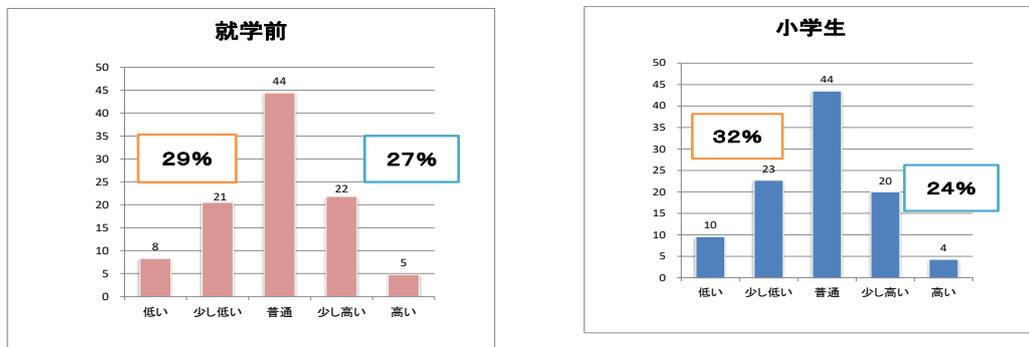
3 ニーズ調査結果（抜粋）

子育ての環境や支援への満足度（対象児童別）

【 対象児童別 】

1. 就学前 : 低い～少し低いと感じる人の割合（不満足）＝29%
高い～少し高いと感じる人の割合（満足）＝27%
2. 小学生 : 低い～少し低いと感じる人の割合（不満足）＝32%
高い～少し高いと感じる人の割合（満足）＝24%

調査結果：就学前児童は満足度が高いと感じる割合と低いと感じる割合が均衡している。小学生は満足度が低いと感じる割合が32%となっている。

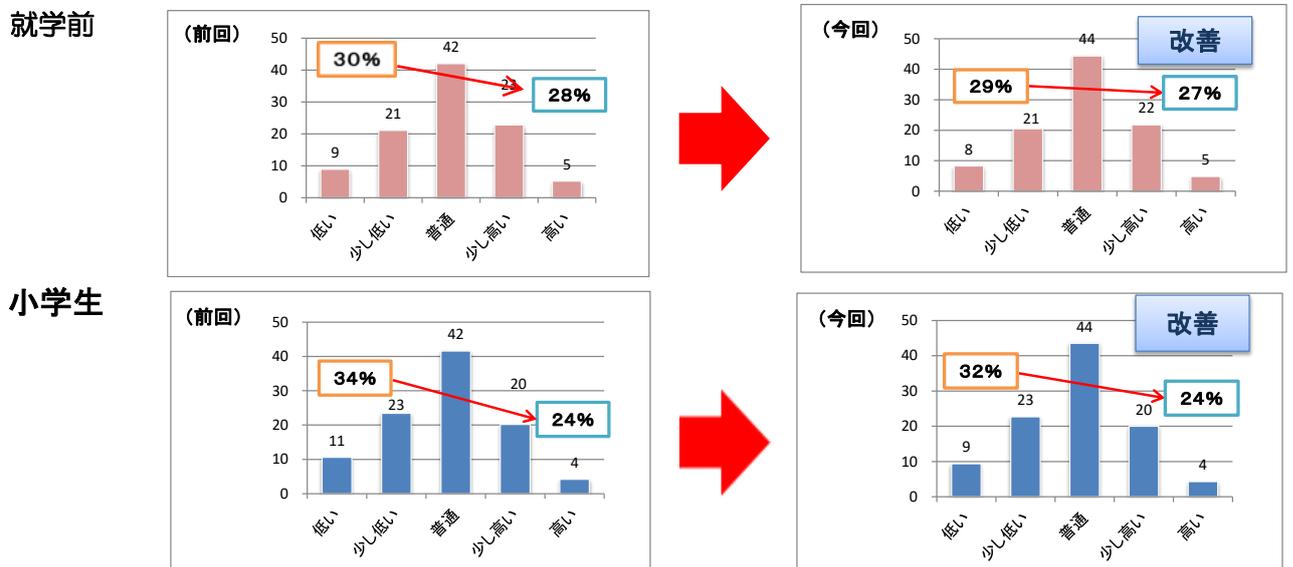


子育ての環境や支援への満足度（比較）

【 前回比較 】

1. 就学前 : 低い～少し低いと感じる人の割合（不満足）＝30% → 29%
高い～少し高いと感じる人の割合（満足）＝28% → 27%
2. 小学生 : 低い～少し低いと感じる人の割合（不満足）＝34% → 32%
高い～少し高いと感じる人の割合（満足）＝24% → 24%

調査結果：就学前児童、小学生ともに満足度が低いと感じる人の割合が減少し、高いと感じる人の割合は大きな変化はない。

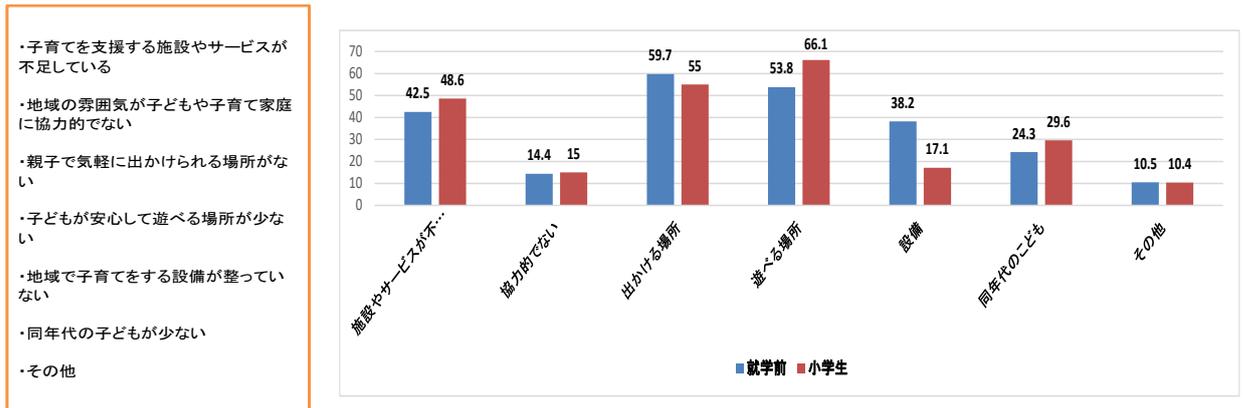


満足度が低い～普通の人々の理由（対象児童別）

【 対象児童別 】

1. 就学前 : 「遊べる場所」「出かける場所」がないと感じる人が多い。
2. 小学生 : 「遊べる場所」「出かける場所」「子育てを支援する施設やサービス」がないと感じる人が多い。

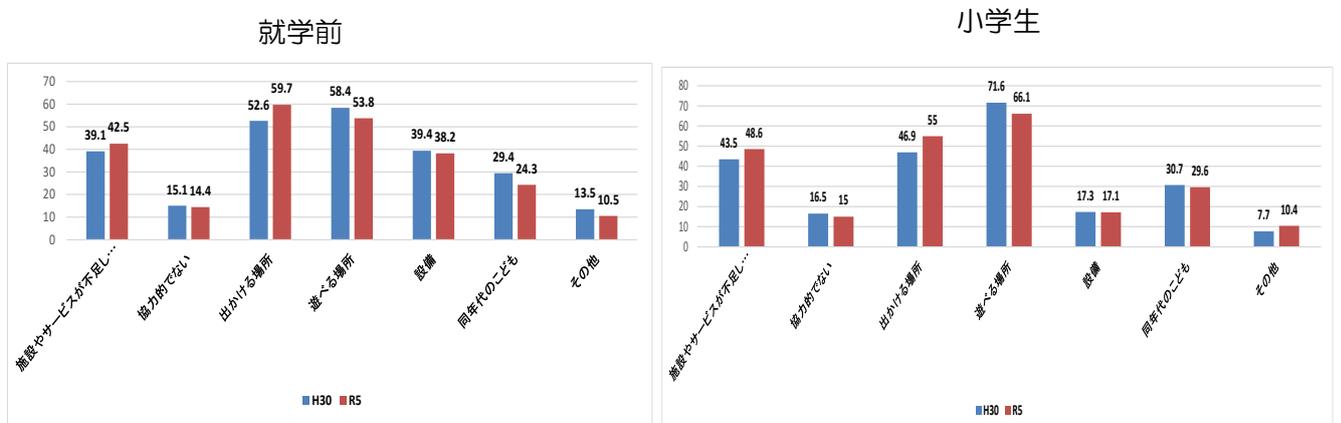
調査結果：就学前児童、小学生ともに「遊べる場所」「出かける場所」がないと感じる人が多い。



満足度が低い～普通の人々の理由（比較）

【 前回比較 】

1. 就学前 : 「遊べる場所」「出かける場所」が少ないと感じる人が多い。
2. 小学生 : 「遊べる場所」「出かける場所」「施設やサービス」が少ないと感じる人が多い。



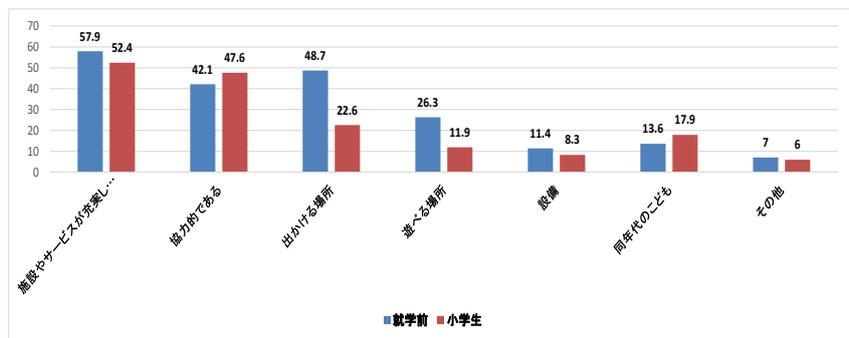
満足度が少し高い～高い人の理由（対象児童別）

【 対象児童別 】

1. 就学前 : 「子育てを支援する施設やサービス」が充実していて「親子で気軽に出かけられる場所がある」と感じている。
2. 小学生 : 「子育てを支援する施設やサービスが充実している」とする割合が最も高く、次いで「地域の雰囲気子どもや子育て家庭に協力的である」と感じている。

調査結果：就学前児童、小学生ともに「子育てを支援する施設やサービスが充実している」「地域の雰囲気が子どもや子育て家庭に協力的である」と感じている。

- ・子育てを支援する施設やサービスが充実している
- ・地域の雰囲気が子どもや子育て家庭に協力的である
- ・親子で気軽に出かけられる場所がある
- ・子どもが安心して遊べる場所が多い
- ・地域で子育てをする設備が整っている
- ・同年代の子どもが多い
- ・その他



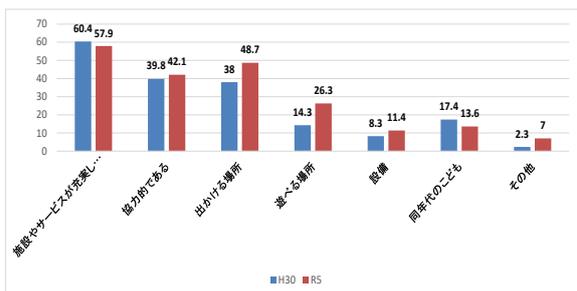
満足度が少し高い～高い人の理由（比較）

【 前回比較 】

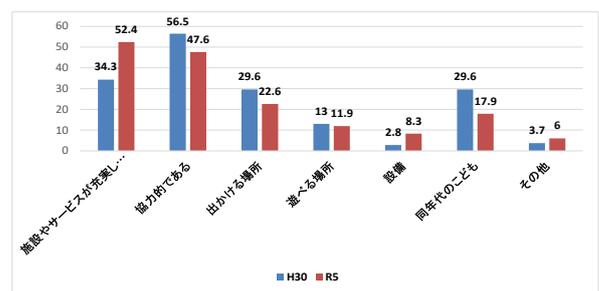
1. 就学前 : 「施設やサービス」「出かける場所」が充実していると感じる人が多い。他の項目についても大きな変化はみられない。
2. 小学生 : 「子育てを支援する施設やサービスが充実している」と感じる人が増加した。「地域の雰囲気が子どもや子育て家庭に協力的である」の割合は減少している。

調査結果：就学前児童は「親子で気軽に出かけられる場所」「子どもが安心して遊べる場所」が多いと答えた人の割合が増加した。小学生では「子育てを支援する施設やサービスが充実している」「地域で子育てをする設備が整っている」の割合が増加した。

就学前



小学生



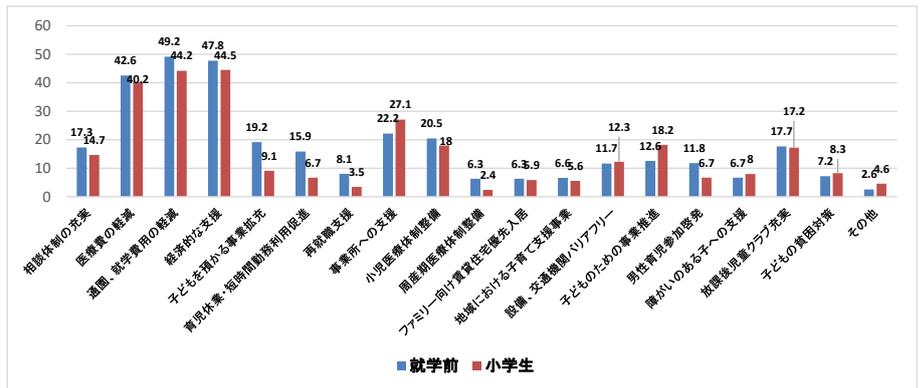
子ども・子育て支援において重要なものは（対象児童別）

【 対象児童別 】

1. 就学前 : 「経済的支援」「通園、就学にかかる費用の軽減」や「医療費の軽減」を重要とする意見が多い。
2. 小学生 : 「就学費用の軽減」「経済的な支援」「医療費の軽減」が重要と考えている。

調査結果：就学前児童、小学生ともに「経済的支援」「通園、就学にかかる費用の軽減」「医療費の軽減」が重要と考えている。

- ・困った時の相談体制の充実
- ・医療費にかかる費用の軽減
- ・通園、就学にかかる費用の軽減
- ・経済的な支援
- ・保育所等の充実をはじめ子どもを預かる事業の拡充
- ・育児休業・短時間勤務制度の利用促進
- ・出産・子育てによる退職後に就業を希望する場合の再就職支援
- ・仕事と子育ての両立の推進に取り組む事業所への支援
- ・小児医療体制整備など子どもへの健康支援
- ・同産期医療体制の充実など妊娠・出産の支援
- ・ファミリー向け賃貸住宅の優先入居
- ・親子を対象とした地域における子育て支援事業の推進
- ・子どものための設備、交通機関などにおけるバリアフリーの推進
- ・自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動などの事業推進
- ・男性の働き方の見直し、育児参加等の啓発活動
- ・障がいのある子どもへの支援
- ・放課後児童クラブの環境やサービスの充実
- ・子どもの貧困対策を推進する
- ・その他

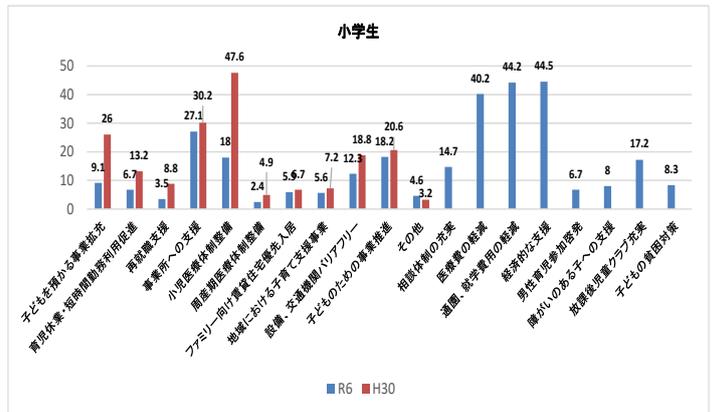
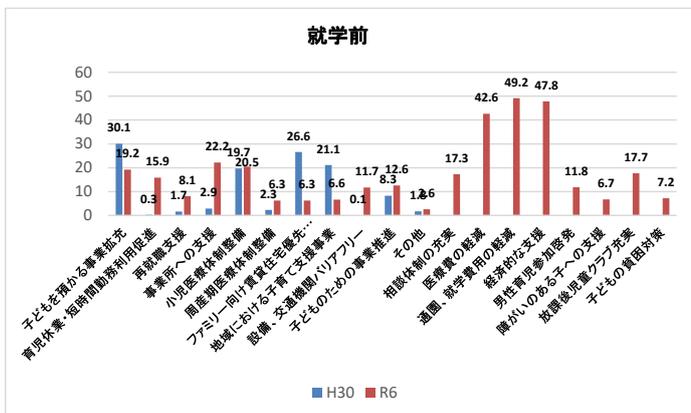


子ども・子育て支援において重要なものは（比較）

【 前回比較 】

1. 就学前 : 「子どもの通園、就学にかかる費用の軽減」とする割合が最も高く、次いで「経済的な支援」が多い。「仕事と子育ての両立推進に取り組む事業所支援」や「育児休業・短時間勤務制度の利用促進」の増加率が高い。
2. 小学生 : 「子どもを預かる事業の充実」「小児医療体制整備」が前回と比較して減少している。

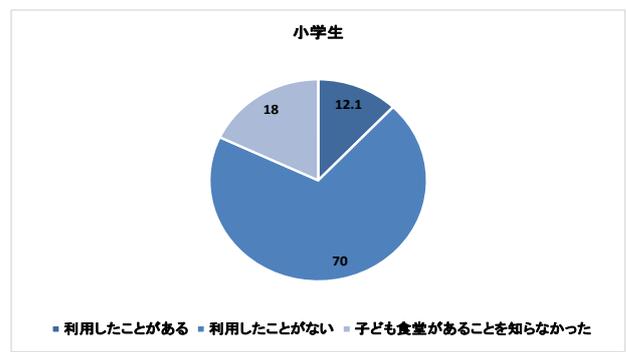
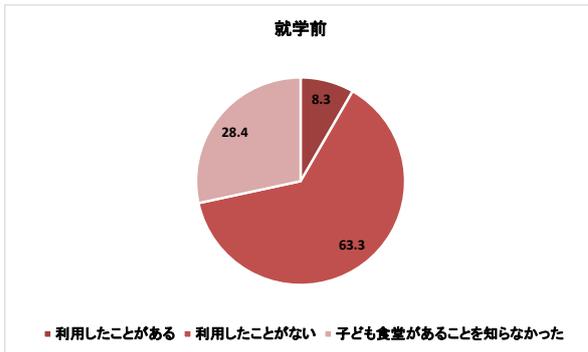
調査結果：就学前児童、小学生ともに「経済的な支援」が最も重要と考えている。



※前回との比較がない指標は、今回追加されたものです

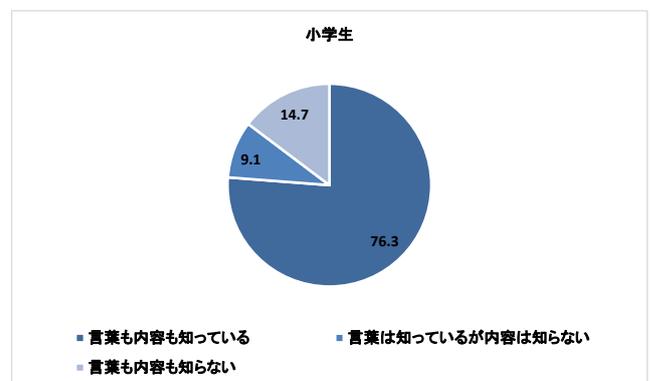
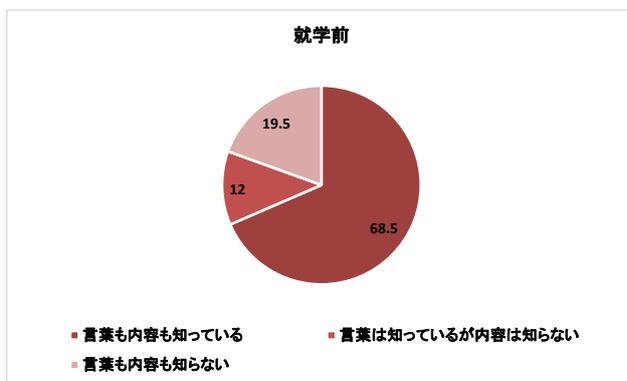
その他

【宇佐市のこども食堂を利用したことがありますか】



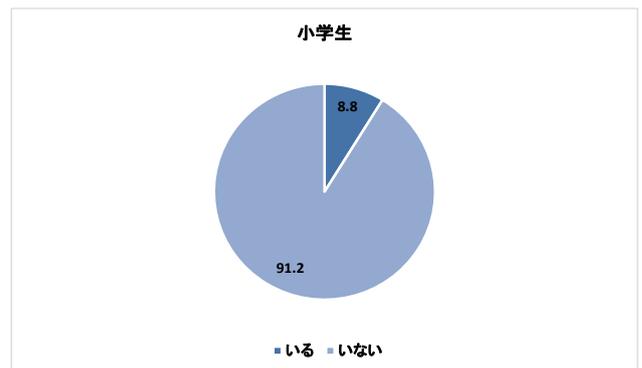
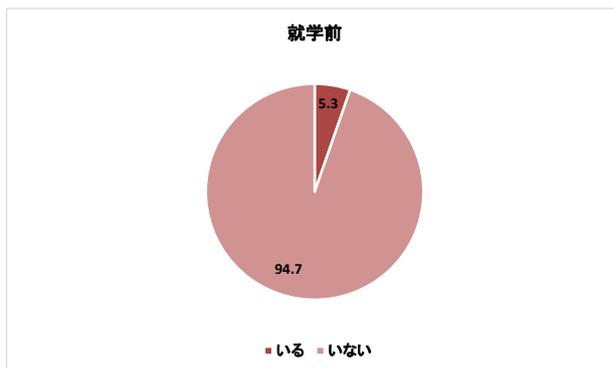
- ・ 就学前、小学生ともにこども食堂について知っている人が6割以上いる

【ヤングケアラーという言葉を知っていますか】



- ・ 就学前、小学生ともにヤングケアラーについて知っている人が7割程度いる

【現在、あなたの周囲の子どもの中でヤングケアラーに該当すると感じる子どもはいますか】



- ・ 就学前で 5.3%、小学生で 8.1%がヤングケアラーに該当する可能性がある